



和
中
の
花
全

特別
ル 3
3617
75



諸道中袖鏡

東海道	一	中山道	一
加列令沢乃	五十	越前福井乃	五十
越中富山乃	五十	富山令沢乃	五十
文分中仙乃	五十一	仙臺乃	五十一
小松大野乃	五十二	大津令大坂乃	五十二
紀別若山乃	五十三	高野山乃	五十三
米沢乃	五十三	高野令若野乃	五十四
吉野令奈良乃	五十四	奈良令大坂乃	五十四
いせ田舎令田舎乃	五十四	南知盛屋乃	五十四
おろ令伊賀乃	五十五	長湯令船乃	五十五
大坂令長湯乃	五十五	さまた令船乃	五十七
岩倉小倉令船乃	五十八	甲列乃	五十九
富士来宿乃	六十一	月延乃	六十三
甲府令文乃	六十三	日光乃	六十三
水戸乃	六十四		

東海道 中山道 道中記

上下だん町や村
わいふさうり
神社仏が古

御定荷物貫目

- 一 一 往 荷 三拾六貫目まで
- 一 一 往 荷 拾貫目令拾八貫目まで
- 一 一 往 荷 二貫目令六貫目まで
- 一 一 往 荷 日引一人足箱六貫目まで
- 一 一 往 荷 人足箱六貫目令八貫目まで
- 一 一 往 荷 往の儀と三ノ寄手一より坂下石乃ハ以外之
- 一 一 往 荷 往の儀ハ一より坂下石乃ハ以外之
- 一 一 往 荷 往の儀ハ一より坂下石乃ハ以外之
- 一 一 往 荷 往の儀ハ一より坂下石乃ハ以外之

東海道

日本橋から二里
品川へ

本宿百十七文
かへ尻七十五文

中山道

日本橋から二里
板橋へ

本宿百十一文
かへ尻七十五文

大橋町南側町を附出

り、本橋より北に廿

六町あり、右の方に

所城あり、一町あり

本橋より北に廿

六町あり、右の方に

所城あり、一町あり

本橋より北に廿

六町あり、右の方に

所城あり、一町あり

本橋より北に廿

六町あり、右の方に

所城あり、一町あり

本橋より北に廿

六町あり、右の方に

所城あり、一町あり

附出、本橋より北に

廿六町あり、右の方

に所城あり、一町あ

り、本橋より北に廿

六町あり、右の方に

所城あり、一町あり

本橋より北に廿

六町あり、右の方に

所城あり、一町あり

本橋より北に廿

六町あり、右の方に

所城あり、一町あり

本橋より北に廿

六町あり、右の方に

所城あり、一町あり

本橋より北に廿

六町あり、右の方に



門
二

本百世文
加八十文
人六十五
同
吾玄湯

有り在百七文かゝ七十文
 ○太宰府海馬島に沢庵和
 尚の因奉れ米中又百石
 世人宗○ひやくにちゅう教に極多し
 ○ひやくにちゅうお川も○やうに所至もいさの
 門けつうありしを新焼
 也○さみづ満屋ありこ
 ちの名取家も明も殿乃
 石管ありしをかぬく
 小條家の時バビちのかま
 廣大ありしと云○さみづ
 川○ひやくにちゅう濱川○ひやくにちゅう仕金場○
 鈴の賣人さんありしあり

戸田の口より端を
東より表の比々橋
東と云ふ岨人あり
戸田の口より比々
東より表の比々橋
東と云ふ岨人あり
戸田の口より比々
東より表の比々橋
東と云ふ岨人あり

浦和 一里八町

本七十七文
加五十二文
同
加五十二文
加五十二文

白く、村。辻村は
 留小坂より上りてある
 境あり。岩村は東に
 の芳表の中、小調の宮
 と云や、ありむし
 柿の中より、小調の
 柿にあり、ある、ある、
 文と、その、その、
 あり

前浦和分
一里十二所

本七十一文
加四十九文
禮部

○宿の門をふさぐの
 仕あり。榛谷村。是
 より大文まである
 原の二十余町を
 合村する時

鈴石と云ふは辺が川上
 本門より西の田舎家一
 本寺の八幡村の大
 表和申をうけるが
 石地蔵といなり。きふ
 ね。天神。わくま。南
 藤田。さうじき町八幡
 づう八幡宮。六つう
 いふ。大橋。一が
 今八幡。さうじき武
 家の八幡。今又出
 けり。武家の八幡。今
 来る。五門といふ
 万葉集。五
 玉門。さうじきつう
 さうじきに何そいふ
 たり。きふ
 けり。さうじきつう
 江戸。京橋。さうじき
 の秋。さうじきつう

陳中

四

本百廿九文
 八十三文
 人六十文
 二里九町
 二里九町

柳ヤナギたふ八幡文やちばんぶん時宗ときむねあり
 ありや宿坂しゆくばんやき鐵坂てつばんを
 云い。あまの坂さかたをい
 坂さかの上下じやうげに弟あにやあふ
 あまね軍いくさのちりなき
 の親方おやうち半はんありふと
 むさうふみのみさう
 えさうふ本ほんあり赤生橋あかせいしり
 ○けらやのかを村むらの
 取次とりでたふ。六代むくだいを
 右田みぎで茶ちややあふふ
 屋やあつるう長ながを二里
 おおのふ日ひ常とことす
 ○夫そが町まち

東

本二萬七千文
 同至
 二萬七千文
 孫右為

415

〇いりゑ十人の盗賊とあり一哩で塚と十集し〜り十塚と云々

〇八里町太八幡の天あり。大坂。白土坂系やろ。系町町より出

よりうらうらと云々〇宿の門太の方には城

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

やろ。系町町より出よりうらうらと云々

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

〇禁ぐ入りのおあな乃方に禁ぐ入りのこれ一里あり

〇くまどが二里井丁日ふちや

本百廿八文 新ちりうら八十三文 平ちり

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系やろ。系町町より出

よりうらうらと云々

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

やろ。系町町より出よりうらうらと云々

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

やろ。系町町より出よりうらうらと云々

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

やろ。系町町より出よりうらうらと云々

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

九町。者の門よりあり

長十六町。おあな乃乃の地よりあり。大坂。白土坂系

やろ。系町町より出よりうらうらと云々

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

やろ。系町町より出よりうらうらと云々

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

やろ。系町町より出よりうらうらと云々

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

やろ。系町町より出よりうらうらと云々

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

やろ。系町町より出よりうらうらと云々

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

やろ。系町町より出よりうらうらと云々

〇宿の門太の方には城あり。大坂。白土坂系

建文六年二月九日

蓮生判

宿とせき川あり
 川の流はむ小橋あり
 石束村。たふち。ぶた
 わりち。ぶたあり。本
 田村。是。田。山。あり。乃
 後。田。田。の。所。あり。乃
 分出。和。云。田。山。云
 平。の。た。あり。太。の。方。に
 根。田。村。有。成。田。長。安。が
 後。水。あり。之。所。あり。と
 長。安。が。後。ふ。有。あり。
 和。井。と。云。亦。あり。む
 一。一。の。成。あり。む
 の。和。井。ふ。居。後。せ。と

と云はじしつゝ
 今もあかく自害し
 あひ首と云はるる
 一に毎夢を首とほし
 つゝの首と云の首根の
 またはれはひ来りしと
 りつゝの首と詞を色
 あらもく大蛇神とわづ
 めきり毎夢を首とを
 塚はつきに返とて今に
 塚わり白きこの社を今
 分ひこの文と云の八幡
 町はかんの文はひあがり
 大山をわりはあより
 仲仙たりまうつと出る

家奉場
大七町

本
卷
十一
文
同
卷
利
在
惠
人
在
七
文
新
去
清

東中

旅任公事

右にサ條にみえし

忘乎可忘懷者也

仍垂狀此件

建文六年二月九日

蓮生判

○宿とてくみ
むあふ

川の流るゝ小橋多し

○石原村いしはら○左ひだりふちぶた

わうちがふもつゝのふん

田村 是 畠 山 年 太 乃

後見本田の次郎ちるる

が^い出^でし^やと云ふ^を聞^きく

平のたりありの右の方に

張田村有張田長安が

後水戸天皇
御紀

モ安^グやふ奇^トあり。

○井と云ふもあらず

[illegible]

の、水井ミヅイ小居こゐ後ごせしと

This is a vertical strip of a woodblock print illustration. It depicts a section of a landscape. At the top, there is a building with a tiled roof, partially visible. Below the building, there are several stylized trees with dense foliage. The bottom part of the strip shows a continuation of the landscape with more trees and a path or stream. The style is characteristic of traditional Chinese woodblock printing, with bold lines and a limited color palette.

This is a vertical strip of a traditional Chinese landscape painting. It features a mountain peak on the left, a small pavilion or structure on a hill in the middle, and a body of water with reeds at the bottom. The style is characteristic of traditional Chinese ink and wash painting.

卷之四

云々下云々云々是

もふのきと云は

これのまゝの小事

何なる光嚴と

○老いん橋長さ十二間
○本橋沢。人々小坂あり
橋あり長さ十三間。此山
小坂寺あり。橋沢と
名あり。あづま。此神社
あり。橋沢より東登る
とすうやもろ。押切入
に。橋あり長さ廿五間。
前川小なり。國府
津。町のかに橋長さ十
九間。是より右の方十
町をどけくそむれ雲見
祐成時致り。あふ雲あり
中村とも近し。吾我
の社あり。いはあまの
最なる所とて曹洞宗

けづうろ
本老か
新町
二里

本九十九文
同登
能去諸
助志夷

省の東と小幡村といふ
は如うをむる入る
うあら平村。うつえ宿
村。麓の木村。かんな
川。あつひうち日さうこ
てん中ねんういさういさん
天正年中流れた近一
量と一とうすにやめともそハ
わうどうふまげりきるとそ
小桑氏康とくうい
あたり

お新町の
一里半

百六十九文
官巻
忠右衛門

新田

本六百五十七文
同左
二四布
助在り

人六百八十四文
(三十一)
同上其九又

日給概、
同雲、所

より左に板をとり
るありし二所あり

おきかへて
一里廿下

本八十七文

百五
半を要す

下り本三首上より百廿五

○たふみあり。うらうら

名物之類のうらみ

けものうら。町中より

たふみあり。たふみあり

たのうらに記す。目

まつり。たのうらに記す

たのうらに記す。目

時秀より。公の白城の

記す。公の白城の

の記す。公の白城の

山澤翁守稲葉泰

の記す。公の白城の

鉄牛の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

の記す。公の白城の

うらみあり。利を請

○たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

たふみあり。うらうら

のやどりうね

宗祇ハ紀州の人なり
古今の秘と云ふの秘則
ハ傳授ハ道徳院殿
つゝ又ハ後水尾院



うろ六十八 平左

○左の方ありき山
ゆるばふより二里ゆ
りゆの矢ぬけの穴と
てふふゆりきより
一のふより二里

お松井田 二里

お坂本 二里

○坂本ハ紀州の秘蔵
ありゆきふの乃虎の
方あり。横川山実
新ハ碓氷の五実
云安中ハ秘蔵なり
わゝゝめもこの山
なり

お坂本 二里

お坂本 二里

○坂本ハ紀州の秘蔵
ありゆきふの乃虎の
方あり。横川山実
新ハ碓氷の五実
云安中ハ秘蔵なり
わゝゝめもこの山
なり

お坂本 二里

お坂本 二里

お坂本 二里

お坂本 二里

○坂本ハ紀州の秘蔵
ありゆきふの乃虎の
方あり。横川山実
新ハ碓氷の五実
云安中ハ秘蔵なり
わゝゝめもこの山
なり

○坂本ハ紀州の秘蔵
ありゆきふの乃虎の
方あり。横川山実
新ハ碓氷の五実
云安中ハ秘蔵なり
わゝゝめもこの山
なり

つゝ我の糸時致
紐の時は小糸

宝物

一友切丸を道長三尺
守を鑑らうらう

加糸

一清子の糸赤羽他
時致是と糸経

糸

一長人の糸力長こ
尺安徳袖打もひら

糸

一糸の糸すかこ糸付
て糸け糸糸糸

糸

一糸の糸すかこ糸付
て糸け糸糸糸

糸

一糸の糸すかこ糸付
て糸け糸糸糸

糸

一糸の糸すかこ糸付
て糸け糸糸糸

糸

一糸の糸すかこ糸付
て糸け糸糸糸

糸

一糸の糸すかこ糸付
て糸け糸糸糸

糸

一糸の糸すかこ糸付
て糸け糸糸糸

糸

とある。より初はのか
まじふ衣の旁にある
○塩沢村。當りけ入は
坂あり

おろのけ 一里子

本七十一文 同登
うり七十五

○はふより糸はるる
糸あり。○わさふら
ありと由(是より糸ハ
たふわける多し。その
人のうけさかけそ
あり。大毎のたふ

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

お通が 一里子

○ちふたうじま森才
天わりの。市岡西小田
系の織主新當之女
人。或る。八。信文。く
て。越。こ。た。後。り。せ。ご
る。者。い。ま。人。の。も。が。こ。め
る。い。れ。の。衣。友。の。子。形
持。来。と。ある。○こ。わ
○新。や。も。も。の。入。は。こ。び
お。む。い。い。あ。の。と。味。と
り。

お。て。こ。孫。か。二。里
日。三。時。く。共。今

本。七。百。二。十。文。同。左
く。日。百。五。文。万。五。馬
人。なり。

○ひ。不。男。ふ。り。地。も。あ。る。城
堀。あり。○町。守。ふ。ん。さ
が。と。守。方。ハ。伊。豆。と。く

○あ。や。く。一。町。○ひ。ふ
坂。○赤。石。坂。○う。ろ。坂
○風。こ。ー。こ。う。い。本。伊
豆。相。持。の。境。こ。も。ら
う。平。○あ。う。の。城。わ。と
も。も。○胃。石。坂。胃。石
と。も。も。○石。石。○大
う。れ。本。○山。中。茶。や。り
茶。や。り。ま。つ。り。○石。の
方。に。城。わ。と。も。中。比。合
戦。あり。一。柳。豆。明。う。あ
死。し。あ。和。夫。う。る。塔
あり。○石。坂。○大。あ。う。れ。
さ。茶。や。り。あり。○石。坂
○山。茶。や。り。あり。○山。茶。法
花。あり。○山。茶。七。面。あり。
の。山。茶。あり。○山。茶。茶
や。り。○山。茶。ね。う。茶。○今
井。坂。あり。○山。茶。あり。
か。り。町。○山。茶。あり。

○道。子。か。城。後。ろ。奥
二。千。五。里。加。良。金。沢。く
八。十。里。○平。岩。村。○堀
茶。村。○堀。と。い。は。る。ハ
山。あり。

お。と。の。か。一。里。七。町
日。岩。村。田。一。里。七。町

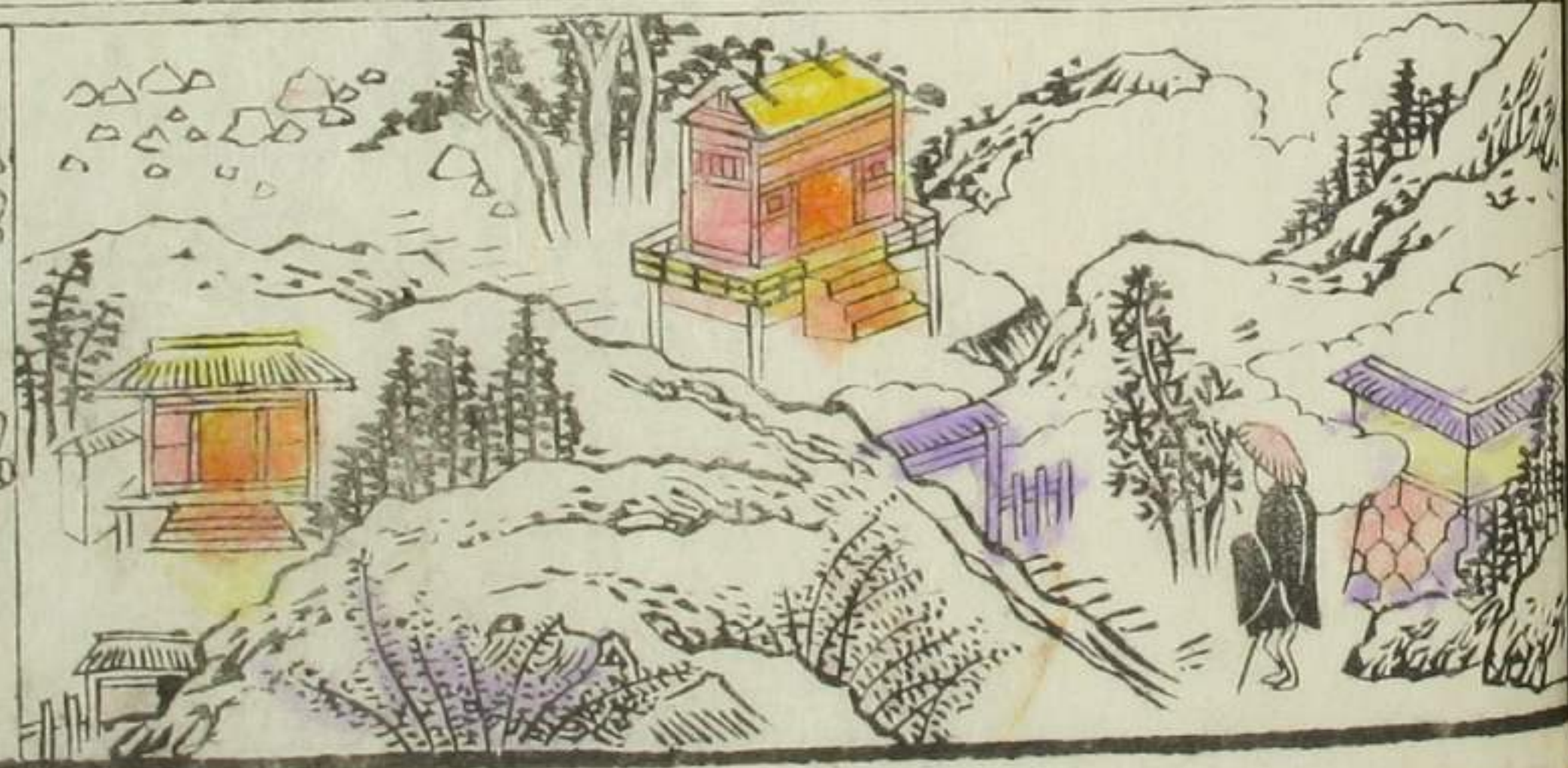
本。六。十。八。文。同。左
く。日。十。五。文。清。金。湯

○右。の。方。に。城。後。ろ。あり
○う。か。い。が。石。石。○和
田。味。坂。○あ。い。ひ。の
有。小。法。修。こ

お。岩。村。田。一。里。十。町
日。堀。あり。一。里。十。町

本。七。十。五。文。同。左
く。日。十。五。文。有。三。馬

○小。法。修。こ。○岩。中。に。流
る。是。より。い。は。る。こ。ま。で
さ。び。き。な。く。○平。塚。村



○平。塚。村。○谷。村。○い。日
を。村

お。堀。あり。七。七。町
日。や。り。こ。一

本。七。十。五。文。同。左
く。日。十。五。文。有。三。馬

一

方々百六文々々六十六文

○三才松○大玉う

とう膝ひざいはちはちは坂さか其その意い

うゝ日十交

わ

卷之五

樓

前
 東
 古
 三
 三
 三

本二白之文 洞屋

三
 人百二文
 戸大集
 梅老の

下六百六十九十六文

あまうし西の城を
わりのうねが来い
しハ東西二十里六丁
今ハ東にうねが
わりのうねが来いけず
のうねと佐々木が
しをうねと佐々木
○助左衛門新田○柏原
はうねと佐々木
うね○松村○大野
田○元○一○系○川井
の橋廿九番○あとの
すその系とより系の
りやうと云

系人

留生の移ふより
 吾ハもか月のりち
 消ぬ身ハもさう
 たり

孝親天皇の御

六月八日
 壬午
 六月八日
 壬午

とてしき人々を
諸の人を電速に
引渡すものなり

のぢりそめ我々われらを渡わたるは
大伴おほとも又またあまのぢり

仏像と云ふべきのみ
之を云ふは唐より

己をわめて来りし事
物うきものか長生

より百里を去り出せば
 山々ありて名曰く

和國
九丁

本曰百又文
問處

二五五文
莊玄陽

○山城府より省の中

小流^{こりゅう} 有^あ甲^{こう} 麻^ま 鈴^{すず} 之^の。
 是^{こゝ} 殊^{こと} 日^ひ 甘^{かん} 一^{いつ} の 之^の 之^の。
 亦^{また} 大^{だい} 坂^{さか} よう す 己^{おのれ} 身^み 也^{なり}。
 下^{した} 坂^{さか} たり 下^{した} 之^の 葉^は 也^{なり}。

有^り時^{とき}ふ^ふの^の留^{りゅう}を^を考^{こう}
ふ^ふと^と云^いう^うけ^けに^に有^り

大にありは谷へ又ゆ
のむと云味なり

山トハすの池あり
 右の旁に掘田あり

すゝの城より

お 中のすか
塩尻しおじり
二雲世

四百八十文
 四百廿一文
 四百文

○是より軍府十六
○左のふちよりみ温



来る星玉の社す
りぬと云ふ山の神社
平城天皇大同元年
の壬午遷都の神名
帳に強河原宮と清間
の神社とあり世に交
人衆人の神社多し
○下の白河の宮あり
こゝわゝ宮の廟と
のさうがうけといふ
富士山のすゝめによ
の穴のり仁田宮
たがへるえと云ふ

お右京の二重
日く系へ 廿五
廿五

本二百廿又 同屋
うゝ百早文 九 内
人百廿又 伊左衛

下八百廿又 今八百廿又
○おのがけの宮守

ある神祇の社有能の
名物あり。當年家
の軍兵水害の羽
お尋るさのれを
と云はば水くぬき
と云ふ所の奥の社
今お村社とて一
と云ふ所のいさ
のゝと云ふ所の社
ある月と云ふ社
と云ふ。新つて。青
時。さういふ出は
るいづちの渡り
橋のりいづちの
のゝと云ふ所の
河原宮。さうの
○りと市を築や山
酒あり。へい。い
うと。松。石の方
久保と云ふ所

わが法人衆人も湯
中。宿の入口の方
す大光明の社あり
社あり。神社の
神社僧多し。南
一里のて上のす
時の城やいづち
お助けが備はり
我田作。け。居
く。上の湯。大
社あり。社
れと月七。日。麻
十の。使。有。此
七。七。十。余。横
下。此。の。程。樹。う。あ
さ。う。う。の。魚。の。り。此
あ。さ。う。う。天。龍。川。の。流
る。く。さ。う。あ。を。流
の

清瀬

さういふ所の
も。お。お。お。お。お
昔の麻衣。さうい
あり
大。地。方。あり。此
厚。さ。う。余。冬。此
上。と。向。る。に。お
け。あり。車。に。お
さ。う。地。方。あり。此
地。の。に。お。お。お。お
大。地。方。あり。此
く。さ。う。又。さ。う。お
る。と。お。お。お。お。お
ら。さ。う。い。り。や。の。す
も。大。地。方。あり。此
大。地。方。あり。此
さ。う。あり。さ。う。お
。さ。う。村。の。谷。村。
さ。う。あり。牛。伏。寺
云。さ。う。あり。長。井。坂。寺

おき我兄弟の石俣佐
もひる

おきなりい字宗院
寄置良雪禅室門
時政の寄置院寺良
富居士ともいひ
がきとそね時ひひ
切らるおもろ。や川

吉東とが系の中中
之流達者おはし
くく船ちんす文。
岩淵うりこ候とる

よりおより武部一里
のきとちる又や川
の流達とれい一里を
いふよりたが延及

あり。中のい。小北。是
より先火よる溪川中
かき松ともありとる
りとも女のともあり

おきなり。一里
本六十文 同左
く百十文 文左請
本三十文 市左請

下。本二百五十文 市左文
○おきなり。これちる
うれの時神もたの地む
またり。白田村。川田

村。このい。中村。元
ま。せり。い。ちる。と
町。ひ。ちる。と
おき。由井。二里
日。津。若。二里
本。二百五十文 同左
う。百人五十文 市左請
人。百人五十文 三左請
下。本六十文 市左文
○おきなり。い。ちる。海

あり。い。ちる。村。おき
し。里。津。若。より。す。の
比。ちる。と。樹。り

おき。一里北丁
日。せん。と
本。百十文 同左
う。七十文 市左請

○おきなり。い。ちる。村。おき
松。い。今。井。と。云。平
が。き。と。ちる。と。大。村
坂。り。大。門。村。おき

松。い。乃。り。い。ちる。と
馬。ち。ちる。と。松。い
乃。ち。ちる。と。城。ちる。と
里。ちる。と。本。村。大。と

や。村。松。枝。が。系。山。縣
ふ。き。と。ちる。と。ふ
所。ちる。と。人の。ちる。と

おき。二里
日。せん。と
本。百十文 同左
う。八十文 市左請

○おきなり。い。ちる。村。おき
松。い。乃。り。い。ちる。と
馬。ち。ちる。と。松。い
乃。ち。ちる。と。城。ちる。と

松。い。乃。り。い。ちる。と
馬。ち。ちる。と。松。い
乃。ち。ちる。と。城。ちる。と
里。ちる。と。本。村。大。と
や。村。松。枝。が。系。山。縣
ふ。き。と。ちる。と。ふ
所。ちる。と。人の。ちる。と

べつやのへに清んが

おきものゑを清んが

の浦に風系をたふ

まて古きまて。ゆめ

川うち渡りて

赤人

田子の浦ふちをて

それむ白蛇のやれ

字ぬかき。ゆめ

町屋系村。小田村

尾。く。沢系やる蛇

を。う。う。う。う。う。う

ぢ。う。う。う。う。う。う

く。う。う。う。う。う。う

が。う。う。う。う。う。う

来への時今のなを

られ。う。う。う。う。う。う

む。う。う。う。う。う。う

あ。う。う。う。う。う。う

と。う。う。う。う。う。う

お。う。う。う。う。う。う

日。う。う。う。う。う。う

本。う。う。う。う。う。う

人。う。う。う。う。う。う

下。う。う。う。う。う。う

け。う。う。う。う。う。う

国。う。う。う。う。う。う

兄。う。う。う。う。う。う

さ。う。う。う。う。う。う

や。う。う。う。う。う。う

山。う。う。う。う。う。う

百。う。う。う。う。う。う

の。う。う。う。う。う。う

清。う。う。う。う。う。う

堂。う。う。う。う。う。う

梅。う。う。う。う。う。う

お。う。う。う。う。う。う

日。う。う。う。う。う。う

本。う。う。う。う。う。う

人。う。う。う。う。う。う

下。う。う。う。う。う。う

け。う。う。う。う。う。う

国。う。う。う。う。う。う

兄。う。う。う。う。う。う

村。う。う。う。う。う。う

お。う。う。う。う。う。う

日。う。う。う。う。う。う

本。う。う。う。う。う。う

く。う。う。う。う。う。う

け。う。う。う。う。う。う

を。う。う。う。う。う。う

河。う。う。う。う。う。う

柳。う。う。う。う。う。う

板。う。う。う。う。う。う

味。う。う。う。う。う。う

社。う。う。う。う。う。う

代。う。う。う。う。う。う

お。う。う。う。う。う。う

日。う。う。う。う。う。う

本。う。う。う。う。う。う

く。う。う。う。う。う。う

此。う。う。う。う。う。う

あ。う。う。う。う。う。う

是。う。う。う。う。う。う

の。う。う。う。う。う。う

あ。う。う。う。う。う。う

右。う。う。う。う。う。う

系。う。う。う。う。う。う

し。う。う。う。う。う。う

と。う。う。う。う。う。う

と。う。う。う。う。う。う

用。う。う。う。う。う。う

久。う。う。う。う。う。う

お。う。う。う。う。う。う

日。う。う。う。う。う。う

本。う。う。う。う。う。う

人。う。う。う。う。う。う

下。う。う。う。う。う。う

け。う。う。う。う。う。う

国。う。う。う。う。う。う

兄。う。う。う。う。う。う

と。う。う。う。う。う。う

と。う。う。う。う。う。う

用。う。う。う。う。う。う

久。う。う。う。う。う。う

お。う。う。う。う。う。う

日。う。う。う。う。う。う

本。う。う。う。う。う。う

二里之御

三

八所府中より二里

○平内町 沼尻のふち

わく。○此にけ焼系とも

云々の畑中にうむる此

と云る。○平川地子。

岩系右の方大内親

者あり。つぎに焼系

と云る。○此にけ焼系とも

害せし。○此にけ焼系とも

○一里山村。谷の腹系

薪より云十町半方

うあき。の畔に木

の河の中。八里

る社。○此にけ焼系とも

吉田米や。○此にけ焼系とも

河。○此にけ焼系とも

○東系。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

○府中。○此にけ焼系とも

[illegible]

あり祢まめのとこ村の
あり居るふ村寢足
ふんりんせん

山時泉守の藤に
抱くは浦島太郎の山氣
墨強き庭より移す

めの藤をえんごー地
 糸洲くびくあり本を川
 のみづれの肉小深岩をこ
 石くは松岩つー者
 糸きき糸あがあつぐく
 ううづつう場のをを
 雲石扇風石まあゆこ
 石舟つる石あく石大
 谷石小谷石あぐく石
 石石多しは河東ハ娘
 小松と云々石小石を下
 に糸知天の社あり道
 是かぐわある石糸く
 比排小糸やるをを切

○水のうへに六つある村
 おろろきある。おろろき
 津戸屋をみせし。おろろ
 いひひれの名物。おろろ
 左。おろろ。おろろ。
 おろろ。おろろ。おろろ。

おろろ。おろろ。おろろ。
 一里

おろろ。おろろ。おろろ。
 同屋
 孫き清
 人九十二文

おろろ。おろろ。おろろ。
 下。おろろ。おろろ。おろろ。

おろろ。おろろ。おろろ。
 あり。おろろ。おろろ。おろろ。

おろろ。おろろ。おろろ。
 川。おろろ。おろろ。おろろ。

おろろ。おろろ。おろろ。
 第一。おろろ。おろろ。おろろ。

おろろ。おろろ。おろろ。
 大。おろろ。おろろ。おろろ。



おろろ。おろろ。おろろ。
 左。おろろ。おろろ。おろろ。

おろろ。おろろ。おろろ。
 一里

おろろ。おろろ。おろろ。
 同屋
 孫き清
 人九十二文

おろろ。おろろ。おろろ。
 下。おろろ。おろろ。おろろ。

おろろ。おろろ。おろろ。
 あり。おろろ。おろろ。おろろ。

おろろ。おろろ。おろろ。
 川。おろろ。おろろ。おろろ。

おろろ。おろろ。おろろ。
 第一。おろろ。おろろ。おろろ。

おろろ。おろろ。おろろ。
 大。おろろ。おろろ。おろろ。

おろろ。おろろ。おろろ。
 左。おろろ。おろろ。おろろ。

城もあり水の多かり
うらめ川城のちんせ
人定ふ人をも人月九
十又ひふれはれは
川となる 河川の
河川と後へ川
わく

かあや 一里
日坂 一里

本二百廿五文 同金
うらめ川 同金
人百十文

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

本六十文 同金
うらめ川 同金
人百十文

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

○東海と松山坂なり
坂とてすす東城
松山とてすす東城
松山とてすす東城

の附母の故を言ふて
 うちろふとてかうてふ
 ○太の芳もけいふ親
 寄寺と云寄にむじ
 むろのうとて言ひ
 一にけを死しむ
 久ぢあてふれ現
 世とて世にあら
 つて人ありにけ
 かつてとてせん
 かくてけいふ

西

多とて又とて
 思ひきや金とて
 ことの中
 けいあてふて
 さよ新田。元久保。
 くとすあのは
 あり。夜あきの松
 いられて

あつさ。一里九
 けり。一里丁

本百十文 同
 九十五文 同
 人七十五文

り。本二百十文
 ○あるとて
 村。田の八幡社
 左ふてうの
 芳とて田とて
 てあうとの
 いふとてあ
 現とてあ
 一及の田と
 せとてあ
 かとてあ
 死とてあ
 中とてあ

○大井。八丈。文。一。千
 と。村。村。村。村。
 中。○。大井。の。入。口。
 小。井。津。津。津。津。
 城。と。て。大。井。の。入。口。
 大。井。の。入。口。
 大。井。の。入。口。

お大井。三
 同大井。三

本二百十文 同
 本二百十文
 ○大井。八丈。文。一。千
 大。井。の。入。口。
 大。井。の。入。口。
 大。井。の。入。口。

お大井。三
 同大井。三
 本二百十文
 本二百十文
 ○大井。八丈。文。一。千
 大。井。の。入。口。
 大。井。の。入。口。
 大。井。の。入。口。

り。本二百十文
 ○あるとて
 村。田の八幡社
 左ふてうの
 芳とて田とて
 てあうとの
 いふとてあ
 現とてあ
 一及の田と
 せとてあ
 かとてあ
 死とてあ
 中とてあ

たふ妙屋寺とて日蓮上人の父おきかの手札の存あり。この村茶やあり。わや

お袋井 一里半

本百八文 同左
くふ十文 八五清
人五十文

下八本百五文とて百九文
○町より通不橋ある十
之里あり。この村
の可勝なり。寺
あり。後を二二五曹
洞家の魚堀。川井
村。本系村右の方に
我権現山あり。北に
十石。西に町右の方
十町。北に井村あり。
村あり。此下に北に

の里に金。のれと解
ある。これ。今に
て二里あり。この
長。四十七石。名所
○この坂二町あり。
○この村茶やあり。

大。二。本。松。う。と。ん
を。き。り。上。の。原
古。戦。場。一。云。坂。と。て
勇士のわかれありし
所。左。の。方。三。四。里。に
て。橋。が。た。と。云。あり。昔
源。光。が。と。云。し。生。ある
ら。大。蛇。と。云。り。い。池。と。云
く。と。云

お八代 四里七町

本三百五十文 同左
くふ百五十文 三。七。町
人百五十文 十。七。町

此。大。寺。山。に。興。寺。と
誠。院。と。号。と。云。本。系
百。石。天。石。家。の。九。新
寺。と。云。保。古。の。隙。海
流。と。云。本。系。十。八。石。可
児。川。あり。は。と。云。一。

平。岩。○。桶。あ。と。て。北
あ。と。て。わ。り。鬼。の。首
堀。あり。む。い。家。の。寺
と。云。鬼。の。首。と。桶。あ。入
て。移。送。さ。に。彼。首。次
才。小。系。と。云。て。数。百
人。の。首。に。及。び。と。云。い。不
小。桶。と。云。り。め。と。云。け
あ。と。と。と。と。と。と。中。代
そ。の。平。の。墓。と。云。り
七。本。橋。市。伏。見。と。云。り
う。ら。田。二。里。と。云。に。古。城
の。あり。跡。及。山。城。と。云。流
民。の。首。と。云。り。時。子。と。云

新。六。の。名。所。あり。今
は。五。里。に。長。時。代。森
我。花。と。云。居。城。あり。と。云
田。一。里。と。云。り。肥。田。と
舊。居。城。と。云。六。加。賀。郡
の。内。に

お伏見 二里

本百五十文 同左
くふ八十文 安。を。あ
と。云。と。云

○。宿。あり。あ。と。と。云。と。云。
と。云。と。云。今。と。云。村。
古。田。村。と。云。田。川。大。河
橋。一。町。余。と。云。と。云。本
昔。川。あり。渡。と。云。川。と。云
古。田。村。あり。下。と。云。糖。派
生。松。系。系。と。云。雲。の。派。
流。と。云。と。云。と。云。田。の。つ。と
と。云。と。云。と。云。と。云。と。云
川。あり。と。云。と。云。と。云。乃

下平百八文より六十八文

。新より人びるを

もつて富士と云ふ

由多見付と云ふ。此所の

内に天宮と云ふ。二里

ちう北の方よりちう南

。十五坂。町中に中川橋

十二石之懸社神社あり

出づかぬ川橋十二石

坂あり。さう松葉やほ

んぢうあり。左に八幡

神社あり。右に八幡

神社あり。中流にさう

西之先より横すくす

。大宮院。坂あり

。下が能村左ふけ塚

あり。其の二色。赤

中八十八文あり。古

事あり。此田舎あり

より二二町あり

わやうな。わやうな

の石塔あり。わやうな

と云橋あり。天宮

川に及す。その水も

流来る。その水も

龍神と云ふ。天宮

舟より。舟中へ

大い。舟中へ

の舟より。舟中へ

系。舟中へ

中の舟中へ。わやうな

わやうな。坂あり

末にわやうな。坂あり

やうな。坂あり

を居。坂あり

あり。坂あり

夷社あり。坂あり

み。坂あり

。坂あり

。天神町あり。ま

川はまた二回を渡る

もやう

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

。坂あり

ゆきしきさ三十武
濱松の入り

おえ海松が 二重
日まひ坂 十二丁

年百八十六文 同左
うり百廿二文 宗左

人九十二文

りり八本百十文 三官文

ばねむり いくま

そり ちの城

城の足元 社大

社あ びり防社

りみ社あ社あ 二百石

神主 喪氏社あ

社あ 二百石 社あ

文内 社あ 廿十町

わり 社あ 廿十町

今 社あ 廿十町

か 社あ 廿十町

林 社あ 廿十町

す 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

○ 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

日 社あ 廿十町

つぎてくが地ありしは
二百年銘の應年申
大地震して山の巽
標貝多しわけ出波
飛き浪波くづれみ
里斗巽いよりあり
おの浪とひとつに海と
ある元福多中つあり
るて浪上りくづなり
風ありと波高れ時
波船程義よりしお
上より伝付くれ数方
の税と打石税とふせ
舞坂の方ハす里やと
海中ありとく杭浅
うちその舟と波船
はるるあり

同 本百十八文 同至 九
 人 又十九文

下りにおちんお海のものよ
○新番所女武具
改めし古田の城を
より新番のたの方
小湊石の橋のわたり
八尋安社の石今も
あり。橋本の太の山を
天保のくみそをふき
の山を言昨山と云ふ
取。そ古多し。
ニテ旧村世更なりや
有六福ちと云ふ
よりもの名新更なり
○言昨山を忍ぶ所
の境。より。の物田。

若きしもあとの
 こゝれぬふその実い
 むのいふあつとや
 渡村河渡川并渡也
 川上あふ川中ハ
 ぐうど川下ハ雲腰川
 之根源ハ飛梁玉より
 流れ出るあり渡一の
 上に岐阜の列南あり

河漢
一里六丁

本六十八文
同登
久右衛門
うし田十又

加納越後守より
 阜二里右の方にあり
 柚木川くち渡り。公
 月村。本庄村東ぬき
 川橋あり。本多村。
 越村は色色小村あり

東坂ノ二里八分

本百六十八
六十七支

加納 飯高 あり。六む
ら。大湊村 杭瀬川 六の
目。と云 船渡し。と
川下。は。その。五。と。つ。と。
り。川。の。わ。と。と。左。の。方
に。大。垣。の。城。と。る。り。七
手。左。左。と。お。わ。り。成
田。畑。川。と。多。い。橋。有。り。
曾。根。小。方。村。と。や。村
う。と。福。寺。村。と。香。木。村

同
 赤坂
 密井
 一里十二丁

本六十文
うゝ卅九文
彌屋市

大塩館之代書に孫六並

白河二里亭

下ハ本百十八冬七十八文

一里ハカチヤの峯ミタケやありと二所フタツコ
入イリ口グチ小コ池イケあり

三
都田
一里半
二丁

トリハ本面より六十八文

古田
二里
丁

前
 日
 一里半
 買
 井
 夫

宿より西菊の山と菊
文と云は菊の紙あ

お世に承る
今日
一里

たの方たの不ふ成じやうの跡あとを
たの方たのにに異いななをを成じやう

の首領あり大雲
村の佐不破の雲
登の板ひくの町

本百五文 同座
人八十文

本百五文 同座
人八十文
本百五文 同座
人七十文

本百五文 同座
人七十文

本百五文 同座
人七十文

本百五文 同座
人七十文

本百五文 同座
人七十文

本百五文 同座
人七十文

本百五文 同座
人七十文

本百五文 同座
人七十文

本百五文 同座
人七十文

本百五文 同座
人七十文

中に五。南に小宮村
あり。雲川と云い
橋あり。お宿村
川に大の舟が停り
東松尾山を望み
一里。山の中村
敷き。左に記
せん石塔あり
南云

お今酒
一里

お今酒
一里

お今酒
一里

お今酒
一里

お今酒
一里

お今酒
一里

お今酒
一里

お今酒
一里

お今酒
一里



下八廿三又三十九廿四又

○花女わりのみく大沼の

定基ひのた女のひ

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あつろくこんせいせしそ

ひもむりーよう花女

あ 鬼ヶ崎 二里半
日 ちやま 十丁五畝
元ハ二丁半

本二百五十文 同左
山本源吉清
二百五十文 松山源吉清
人百廿三文 松山源吉清

下ハ本百五十文 七十文

○左に城をいふより

松平の江二里。町の

うり甲山寺に八幡天

石河内。清氏社と云

○西尾の磯も二里町

の出口に松平川。橋

長二丁二里大橋

おの町を八町と云。矢

新の橋長二百八十

中第一の大橋といふ

日本武の号本表とせ

いふ所の時。取し多

夫と他せふ。おと夫

と云と云といふ

くうひる。おあり

いふ大平川。おあり

吉田。おあり。大川。お

おに。おあり。おあり

○おや。おあり。おあり

○おや。おあり。おあり

り。おあり。おあり

せん。おあり。おあり

方に。おあり。おあり

の。おあり。おあり

○。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

お 鬼ヶ崎 二里半
日 ちやま 十丁五畝
元ハ二丁半

本二百五十文 同左
山本源吉清
二百五十文 松山源吉清
人百廿三文 松山源吉清

下ハ本百五十文 七十文

○左に城をいふより

松平の江二里。町の

うり甲山寺に八幡天

石河内。清氏社と云

○西尾の磯も二里町

の出口に松平川。橋

長二丁二里大橋

おの町を八町と云。矢

新の橋長二百八十

中第一の大橋といふ

日本武の号本表とせ

いふ所の時。取し多

夫と他せふ。おと夫

と云と云といふ

くうひる。おあり

いふ大平川。おあり

吉田。おあり。大川。お

おに。おあり。おあり

○おや。おあり。おあり

○おや。おあり。おあり

り。おあり。おあり

せん。おあり。おあり

方に。おあり。おあり

の。おあり。おあり

○。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

おや。おあり。おあり

牧庵の池から流るる
 石寺にたつ平の池
 の秋草をばさるの橋
 記又たのふさの橋
 枕の香国十せとふ
 ちさうせうあり車
 の塔もあり。牛田村
 ありふのせう月北日
 ありふの月夜をと
 ちさうせう

池程新 二里半
 ありふ 十二丁

本百廿文 同左
 大村六文
 人九十二文 俵屋文七

ちさうせうあり車
 ありふのせう月北日
 ありふの月夜をと
 ちさうせう

〇多分よりある
 文に廿余のせう村小
 世の細くともある
 のちさうせうあり
 墓あり。東むら
 八十八の文を居あり
 〇大坂の城の法を
 〇大坂の城の法を
 〇大坂の城の法を

〇大坂の城の法を
 〇大坂の城の法を

〇大坂の城の法を
 〇大坂の城の法を

〇大坂の城の法を
 〇大坂の城の法を



〇大坂の城の法を
 〇大坂の城の法を

〇大坂の城の法を
 〇大坂の城の法を

〇大坂の城の法を
 〇大坂の城の法を

〇大坂の城の法を
 〇大坂の城の法を

とあるみか
一軍す十二
りえと
うや
わさ

下ッハ廿百十九文ノノ百廿七文

田島橋長、廿七

昔の海へと海に中

わきのうへ

一と不。氏雲と

音書並々々々

と云う奇ハ精痛ハ

卷之五

在^あ不^ふ之^し山^{さん}之^の松^{しょう}

同 武佐
り 二
三

八宿乃冬一

たの方に
智日
の

古村入道

あり。八幡村。澤田村。

○ 子溪村砂川、
七海

川あり星君の山家

○町村○讀已

鏡心

老や一好

海橋村

明海がえりて

ゆめもちぎさう。ちう
あそやの城見ゆる
みすてよ。ちう人嫁
むう。異世より人
浮木あそてある。乃
浦ふ来り。多月とく
て後説とありて天
のかりとありて人
の恒々あると云

あ
宮
あ
あ
あ

同
金
同
金

舟に
浮貝の市

量七肘^二色^一六^二船出^一す

のいふことと又のりとの

付八十二文を結し十七文

すゝたを二百五十文に

人のつとむるを三回

内七百七十三文表同四百

十回

二百八十八教字分二百

四十分二百五十文もす

五十人のりてくゝと代をて

百十五文ちやうど表門九百十七文

表す方四百九十又

二百六十七又表する二百

一、二面平交ともなる

十七人のりめんを代

多々十七人

内卷之六 表門六面

又もむ鼻父表は方

十支五支三支二支

數

六十人のうち六人を

八百六十八

門者或曰又表門者

百六十八文

あ 石 廿七丁 本百八十八文 同金
日 石 廿七丁 本百八十八文 同金
人 廿七文

石 廿七丁 本百八十八文 同金
日 石 廿七丁 本百八十八文 同金
人 廿七文

あ 石 廿七丁 本百八十八文 同金
日 石 廿七丁 本百八十八文 同金
人 廿七文

あ 石 廿七丁 本百八十八文 同金
日 石 廿七丁 本百八十八文 同金
人 廿七文

あ 石 廿七丁 本百八十八文 同金
日 石 廿七丁 本百八十八文 同金
人 廿七文

あ 石 廿七丁 本百八十八文 同金
日 石 廿七丁 本百八十八文 同金
人 廿七文

あ 石 廿七丁 本百八十八文 同金
日 石 廿七丁 本百八十八文 同金
人 廿七文

あ 石 廿七丁 本百八十八文 同金
日 石 廿七丁 本百八十八文 同金
人 廿七文

あ 石 廿七丁 本百八十八文 同金
日 石 廿七丁 本百八十八文 同金
人 廿七文

述し、小澤九の事あれを時分にはた
 よきあり。後六ありて、大宮、大納言、隆
 圓は、後八、澤九、教定、親王の執事と
 あり。あまた、近江山城の境に、夏の清水
 と云々を、井の水は、人々、飲めれと云
 されわ。又、園をも、所不、記す。大宮、
 町、針中り、入、小、荒井あり、所を、山科の
 茶師院と云。火打より、あり、付、場
 有。七、町。近、月、け、友よ、ど、お、く、る、以、六
 ぢ、う、う、う、う、伏見へ、ゆ、る、事、は、記、す。横
 本、右、小、園、越、の、乃、有。六、ぢ、う、う、う、う、壹、是、か
 山科と云。十、様、村、十、様、院、中、有。八、欽、香
 聖、法、寺、子、の、他。田、の、文、川、小、川、之。田、の、文、村
 山科、一、二、三、四、の、文、い、下、の、文、才、田、有。も、名
 の、名、と、い、と、云。ち、ふ、り、う、羽、文、昭、神、を、額、ハ
 光、院、の、才、子、小、川、宗、玄、等、之、社、と、田、の、文、と
 云、い、社、地、の、内、あ、ま、ず、の、社、と、云、有、若、情、雅、朝
 陽、と、云。一、人、琵琶、を、好、む、三、季、の、畠、あ、坂、
 乃、う、澤、丸、の、う、う、や、れ、わ、う、う、う、う、う、う、う、う、
 れ、な、う、と、い、を、氏、社、情、雅、の、御、あり、今、右、の

方田の計、堂に於て入るは、凡そ七十石。是を
 八町搦のなる場と云ふ。庭つと常や庭つこの法、
 うる。左は日蓮宗の学寮ある寺あり。
 安祥寺。敷の中たきく木あり。左は古が
 城なり。ありむいへ系へ入るたひたり。又常乃
 橋より二里余あり。此は小松寺とも云ふ。昔
 平重盛の位也。河原井村。赤上落の時
 ハ系の町人び下も物れせ。上の山天智天皇
 の河原あり。右の方れたあり。口うらなづ
 る。ところへ出る處は、左は新羅場と云ふ。日の
 忌味茶あり。常々黒金之坂と云ふ。右
 の方家の根は、千本松として枝多く、さくる松
 は、是かさけやり坂と云ふ。けりけ茶と云ふ
 わり。こはの内へけりけの水入口なり。經輿
 路よりある時、実系と市が良およう。つとへ
 いかとけりけ。右は市となり。ひかりあり。
 ○栗田は昔あり。口園白道と云ふ。佐々木
 や名をとり。左の山は神門の文あり。あま
 のこの山は、れと云ふ。ふし玉の命。こゝ免乃
 命。うけりの命。玉屋の命。びみ神と勅使

諸國所行程附

庚辰歲前福井道

[illegible]

清すくすく
いふを
一す
むねを
下す

かに一り
すれすれ二り

大分
たふ

たみか
実うき
ふちう

すむせう
かたわ

木のかき

中仙道

四

志田の町湊の北に
金沢の町湊の北に

三
二

二十

本

十

分

[illegible]

江大津大坂道

大津の
甲子
壬午

やあきや
きうらふ
廿二
本廿四
うゝ十七

[illegible]

伏見
一、牽丁

[illegible]

演方
三十一

ひらき 一丁 本廿四文
たき 一丁 本廿八文
たき 一丁 本廿四文
たき 一丁 本廿八文
たき 一丁 本廿四文
たき 一丁 本廿八文
たき 一丁 本廿四文
たき 一丁 本廿八文
たき 一丁 本廿四文
たき 一丁 本廿八文

後紀州若道中

大正
より
支那
の
税

三

たれおん

名飛
守り
より
野
原

● 檣 丁 二 丁 十 丁 一 丁
● 桑 一 丁 十 丁 一 丁

あど、一り、
下あぢ、一り

[illegible]

上市、
舟渡、

たきまゝあり

とうのまゝ
 とうのまゝ

かうきり

より

丁絶乃々
 掘井の窟々

此詩亦在元豐 有世之

東中

田の方より来る
檀現の山より来る

米沢乃 せいのふ 一り

いふやうに二つ
いふやうに二つ

大さじ二杯
米沃へ二杯

丁二十
丁二十

十本廿一文

いぢでわう 州さうめうを

[illegible]

北亭
 廿九文
 二十文

丁未年十月
 丁未年十月

三ノ川ノ下
丁ノ下
丁ノ下
丁ノ下

あゝ名がう
しやう
丁三十九
うう十九
又

けり梅田の所へも白川と云
ふ事あり計本四十六文

[illegible]

太極圖 十九文
太極圖 十九文

あなまきまへ 丁ろ 州又
あなまきまへ 丁ろ 州又

つぎにねきと一丁くく九文
つぎにねきと一丁くく九文

いふはまゝ
いふはまゝ

卷之二十一 本廿六文

中
世
本世之文

[illegible]

己未田

是よりあつて

あゝ
うゝ
うゝ
四
大坂
四

木一
うろ
正の

大
四

ひさき 月本

依ふに
あきま
二万十
丁うら
六十七
支

丁酉年六月十五日

有六、一、丁、三、宋、文

りり悪く、丁うらなうた
仙臺よりり悪くたのり

五

大坂長崎の経

大坂より

大坂より 十リ

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

大坂より 三

大坂より 十リ

為入は小橋お橋中の
さういふうあるのさ
往來のさびたなり

板橋、二り

いふ一り、二り、三り、
小宿町や二丁、三丁、川
老の入りは川あり

川あり、二り

やうけ、二り

いふち、お、城、あり

ま、二り

七日市、二り

いふ、お、川、二り、あり

う、お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

お、二り、あり

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

いふ、二り

このうらまゝ 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
町よりお中より川
一りねて時より金坂
上卜せられどいふ
ちく一り市大より村
せを村おより人口
お川よりおより一
あり

さる市 二り
さる市 二り
二りねておより市
のさるあり

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる



さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

さる市 二り
さる市 二り
はあふけの二りばる
うけのうけはる

小川 二丁世丁

小川 田代まで

小川 八町

小川 二丁

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

小川 田代まで

又石原も上下二町

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

又六十日替り

●香春、一リ

●香春、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●いひさ、二リ

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

●小泉からせ、十七丁

柳川が長勝乃

柳川が 二十丁

いさぎや 四丁

やうき 一丁

目ん 一丁

長勝 二丁

いさぎやより七丁と
いさぎやをさる

田代が 一丁

田代入はうき水
俵をとかき

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

甲府より
大月より

大月が 二丁

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

いさぎやの入口は
中巻をさる

小田 二丁十丁

大田 二丁二丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

塩田 二丁十丁

白井 一丁

大田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

白井 一丁

大田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

塩田 一丁

六十四

一
中
村
一
り

一
七
一

一
中
一

いふつゝをいへたあり

い
あ
い
し
か

ふちろふくふく

一
竹
一
り

一竹
三三
一一

かり

長是、二

一
水戸
二
り

日本に於て廉價の世あり

天保十年
江戸芝神明前

岡田屋嘉七

元极

江見屋吉右衛門

江戸本橋通一丁目

漢東王茂玄

日淺菱芽町二丁目

漢系臣侍八

旧日本橋通記丁目

漢系左助

月通二丁月

山城舊名蹟

日中橋廣小路町

西宮彌玄塲

河日本橋通二丁目

小林新去請

日本石河二丁目

英大船

日芝神明前

圖田屋嘉七

再板

發行

58-157

